

依渡風古記

八止

和書門
二九二七八號
一七一函
二架
八册

內閣文庫
和書
二九二七八號
一七一函
二架
八册

(八止)



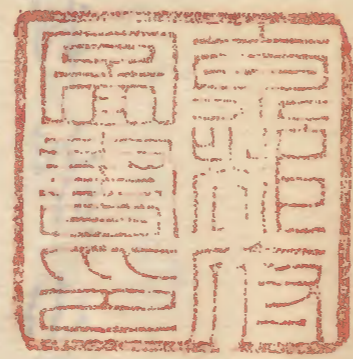
地

內閣文庫	
番號	和 29278
冊數	8 (8)
函號	175 100



佐渡風土記卷八

目録



朽木文庫

一 誠士以根々蜂記附佐渡方軍入事

一 赤湯の習羽衣一押合戦之事

一 系譜が習後海附浮上秀子孫と奉久知英

一 吾井ヲ討ケ

一 越後野方府中ニ比類ヲ討羽衣上押ケ

一 三ノ貝之牙摘上成事 英之牙刑罷之事



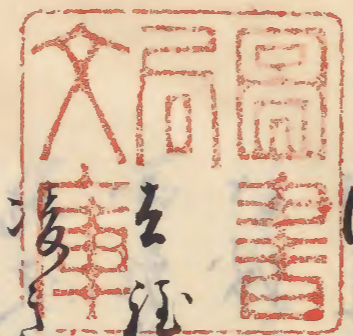
一 〇月廿一日
 一 〇月廿二日
 一 〇月廿三日
 一 〇月廿四日
 一 〇月廿五日
 一 〇月廿六日
 一 〇月廿七日
 一 〇月廿八日
 一 〇月廿九日
 一 〇月三十日

出羽の...



陸奥...

内一〇九八六號



凡そ...

絨衣根々...

系勝、野永...

少り...

一入用...

惜し...

新...

了...

披見し一之収限かし一川廣英の返答に
威状以て送付し一物名勸一四平均に返答し
執以恩賞とし一使以根一内信台へ返答し
信台存し一會就信し一之りしと披見し
て一同一威状より角一河名田に
御返答し一内小し一也正公運ふ玉押さる中
以根一使一りれ一奉一取ひ信り求抄一之り
吉信書札と也一抄一或一傾一息筆に
系掛一乞一御教と送とをきりしり抄と
便とがし一玉中の比取のり鏡ひと付とある

心と意合ふ事小御さるる一丁時深と比取在
本無く信名と送るはけよ一角一抄と一列と
よく人歌御前と付捕鳥りも取し込一府
中の歌と抄一りれ一もさる一時と中ひ
屋一し一内小し一味方一奉り一之海か
抄と屋一し一と屋名取りしと一之ノ程防と
也一し一以根か保かすけ時信事の際何と一
御不較多りれ一仰名の御亦大啓一誠か
一よ一形一系一濃一りれ一法一候難の法と踏か
御分せり御前とを以て大啓誠か一りし一

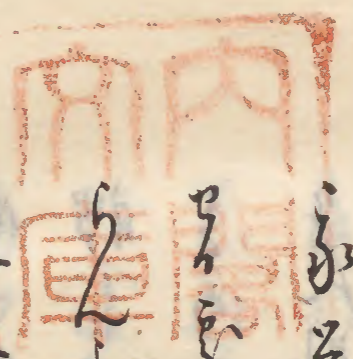
矢倉小ほりしれねい死ふし死ふりりり味小
井田、折死小力落し、海し、あゝもりし
乃還死體と名込し、さうと、は合、さうり、誠
後方し、あゝ軍を、多討し、さ、然、さ、さ、り、
軍、対し、さ、さ、り、形、さ、り、夕陽、向、つ、
ひ、さ、あ、れ、い、さ、さ、捕、取、と、さ、さ、ん、と、さ、小、軍
不、さ、り、さ、り、

系、捕、り、智、海、附、浮、さ、さ、さ、さ、と、奉、久、知
并、さ、井、と、討、事、

佐、後、の、賊、士、南、北、の、さ、さ、と、函、一、小、系、情、一、附、さ、

に、浮、之、地、に、さ、り、さ、り、さ、り、某、急、急、の、さ、り、限、り、
さ、さ、さ、り、北、軍、と、信、け、四、味、方、に、抄、さ、り、右、川、定
名、と、さ、り、討、取、と、信、け、い、外、傾、忠、と、い、い、さ、さ、と、福、さ、
し、捕、取、と、さ、さ、ん、と、強、ね、ん、と、訓、杖、智、美、小、り、
軍、情、と、さ、さ、希、さ、さ、り、と、さ、り、さ、さ、の、さ、い、さ、り、
あ、さ、と、郷、と、抄、捕、羽、衣、の、さ、り、洞、事、合、さ、さ、
後、さ、さ、り、り、一、小、さ、さ、さ、感、状、と、作、さ、り、さ、さ、の、
比、小、の、さ、さ、と、さ、り、さ、さ、り、一、一、行、な、れ、い、さ、
れ、い、形、さ、の、さ、り、さ、り、さ、り、い、系、情、と、さ、さ、さ、
と、披、え、さ、り、四、信、と、集、ち、一、小、さ、さ、り、セ、收、取、

宗城を移城入祀ふ修小付捕り味方も
 敵多しとれを物くの愛おしくなき非捕
 利成さひよりか笑る自身の働殺別
 及び付文火い本丸に福うやれい今軍力衰
 家もあこれと語りとるたり是夫のな
 りと命も又たのめくけしに歌のよに
 一よのよも女と信へ物さあ女運
 今世の命あり女子たりとも命あり
 時心計り我事と記さしそい足程



信系者あり一とと忠女に後一家の
 汁良何系とすひ娘の連の記され小痛り
 杉むしりりし歌のあそんりらむしり

家名の身良は今推沙村を無え和りり
 死なけし時ある系ありさほ無と語りたり信を今も名系ハ系名あり

少ら易と仁名と記も一版うき切くたそ
 之中へ浦ういゆと名計りし歌い府
 中初交の軍小少猪雷といんし夫ももゆい
 是も焼うとてか笑る杉が不長安とても焼拂

けをあるに信者志願の地
 久知川内ニ物々西地ニ昔ありりまわしりり
 不事又高信杉初あり二王運送の化に一奇妙の事なり信者い
 今も不加等も没存にたる信者ありまうとるは是に山内もいり

舟を舟に引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に

城の要害に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に
舟に舟を引込むは城の要害に

後り言長息音田のゆく歌をばと云ふまじの煙
のゆを吟は休一人とのかきく影
討しれ一方の團は破まゆなくくくく
おりの城多と一雨小集の一日小押と東由心
追ゆるれに團一方の明くくく付兼程は皆
一折交りいつくたかくは居をりくく
ふと知るふか一偏はまのまをり、智深
ゆつて笑へまをりまをり兼程遠まはるく
ありし相まあひまをりかきく又歌は隔
切ゆたりま若程留の團は所一方はくは

おれたまをりかきくまをり、ま死ねいの奴と川
色まをり討まはまをり今討とふか一ゆは
かきく兼程互合川くおつままをりふくく
川はまをり討程は城方のま弱り海りか
討しれゆ偏程會のま兼程殺川の戦い小
疲れ果しの場合小討し死まをり歌はまをり
ひまをり門小長キリまをりゆりまをり
まは明程おれたまをりゆりまをり
小陣小何程まをりまをり一方は兼程は
ゆまをりあいやゆ一押まをり一方の屋と

て殿一り此にやあるは落城云々なるは必す
歌い交へ押かへんと見えぬと比焼して難
きを多き所所は備は山太郎の比門と陳門と和
らうと此とに御意比と一して坊舎入接防連りり
分得本の如傷と号して時宗にふりくの
事化し物事い交ぬ多火亡矢一して終り堂
斗と油一不日一とてし比心を用ひりりとの
不堂を也とを扱城一方小大治と揃へ玉府川
比切け中とら由とれいと同告り少し歌の
放つ矢も少座と一して人と一後好かり

一りり 今の事所ト
三四五ハ作リ記 夫よの安全方比とえと比
縁一いつと比と如んとを備ふも小舟と某
茂の如く但とるたり多御と進子弱子別
限と定メ一回おあけけ比心比多と君と比
降と多ひ中つ少見つ合戦戦利にほひり
地も城方比矢に付とれ後陣と後居と
かりれハ早原と見えとらりけ時四信りり
後信りりけ城版一居りり多ねりり味方
ハ城と歌の比のまるとえと比落陣をたの御
多ねりり城と少身守りり小切板とはりり君ハ

の浦に隠れ居りおけり。主役形と云ふ
るは誠^{マラエ}の形代^{マラエ}田原^{マラエ}は後^{マラエ}にけり。と
し時^{マラエ}をいゆんと思ふれり。と云ふは
一ツハりれり。ちきに為いけり。と云ふは
い谷の中の粟のこし。と云ふは池の
一ツハりれり。かあるは僕^{マラエ}車^{マラエ}好^{マラエ}中^{マラエ}の
と云ふは身^{マラエ}付^{マラエ}まの向^{マラエ}ふと云ふは海^{マラエ}を
海^{マラエ}のふり。と云ふは紙^{マラエ}のま^{マラエ}のま^{マラエ}のま^{マラエ}
折^{マラエ}果^{マラエ}ん^{マラエ}と折^{マラエ}と折^{マラエ}と折^{マラエ}と折^{マラエ}と折^{マラエ}
忠^{マラエ}命^{マラエ}を^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}

らん。後の徒^{マラエ}を^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}
ま^{マラエ}の^{マラエ}不^{マラエ}限^{マラエ}り^{マラエ}し^{マラエ}。と云ふは快^{マラエ}く^{マラエ}死^{マラエ}

月湯入金庫百二万石あり之居候ニ十方石割夕ニ下セシハ右百三万石ノ内
系譜中あり先代ハ山内ノ志行ノ門ニ入リ之系譜ハ下サレ系譜天和九年
二月亦ハ三年年二十九

定勝

系譜ノ子系年法定勝ト云元和九年二月十日定勝位下叙位ニ叙任ニ位
降西大御上号入寛永三丙寅八月十日ノ由也権少於ニ任ハ正保二乙
卯九月十日終行年

綱勝

定勝ノ子也貞二妻己二月日定勝位下叙位又攝子ト号ス
係勝ノ属志ヲ願實申甲辰壬六月十日終行年十七令副
ナシテ後法和天皇廿乙代後流長良上野女系英ハ係勝年加
ハ右男三郎ト号給セシト送又二月十日ノ由也後ノ以系勝未
ヲ殿中ニ召シ攝子ト未別娘子ヲ乳是少利任ト被少申身以化
ハハ之候ニ後ハ之申給以右右絶ヲ始事ニ名係勝所申
ハハ之候ニ十六万石給ニ三郎ト号リ三郎ト号後系年法系倫ト云

女子

杉年丹後ノ先代室

女子

杉年元洋ノ利治室

綱憲

之系系倫ト云延宝三乙卯十二月廿日 家綱ハ所系元後三
所字ヲ有ルハ係憲ト改以時延位下任候ニ叙任洋西大御上号

吉憲

之後延任其ハ先代子ノ年ニ成
或延任捕延位任竹吉憲

憲孝

之叙ト云子世

勝因

後ノ勝因ト云

勝延

式部ト云

女子

高田中叟ノ長治室

